

《履修上の留意事項》体験学習の際には身なり、服装などに注意すること。

学外の方々（模擬患者）が参加するので、失礼のないよう注意すること。

授業の性質上、授業風景の写真、動画等の撮影を行うことがある。

《担当者名》教授／長澤 敏行nagasawa@ 教授／安彦 善裕yoshi-ab@ 教授／伊藤 修一shu@ 教授／越野 寿koshino@
教授／永易 裕樹nagayasu@ 教授／村田 勝murata@ 准教授／豊下 祥史toyosita@
准教授／松岡 紘史mazun@ 客員教授／千葉 逸朗 非常勤講師／豊福 明

《ファシリテータ》

加藤 幸紀 門 貴司 岡山 三紀 泉川 昌宣 豊下 祥史 倉重 圭史 松岡 紘史
川西 克弥 油井 知雄 村田 幸枝 榊原さや夏 福田 敦史 佐々木 みづほ 植原 治
菅 悠希 南田 康人 吉田 光希 村田 幸枝 富田 侑希 六車 武史 清水 伸太郎 竹田洋輔

《教育資源》

模擬患者（SP）

【概要】

授業の目的は、現代社会における医療の問題点について考え、新しい医療人をめざして、単なる知識、技術の伝達だけでなく、それらに裏付けされたコミュニケーション能力の育成、態度教育、倫理教育、多職種連携教育を行うことである。3年次の医療コミュニケーションの授業を発展させ、よりリアリティーのある授業を行う。また、本授業は客観的臨床能力試験（CBT、OSCE）への準備も兼ねており、学生がグローバルスタンダードと比較して遜色ない、問題解決能力のある臨床医となることをめざす。

【学修目標】

一般目標

国民のニーズに応える歯科医療者を育成する。

行動目標

患者中心の医療コミュニケーションを実践する。

SOAPに基づく診療録の記載する。

歯科心身症に関する知識を得る。

多職種連携を体験し、専門家の立場としてコミュニケーションを行う。

到達目標

各分野で学んできた歯科医療、口腔保健の知識を統合し、体験学習を行うことにより、臨床の現場での「パフォーマンス力」を養う。模擬患者（SP）を前にして、医療コミュニケーションを行う（プロセス）とともに、医療情報をSOAPに基づいて整理できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ） 2	医療コミュニケーションのポイント	● 歯科医師として患者への対応の方法を知る。 ● EQ（感情指数）について理解する。 ● 患者への対応のさい、知識の裏付けが必要であることを理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	千葉逸朗 長澤敏行
3 ） 4	歯科心身症患者との医療コミュニケーション	● 舌痛症、非定型顔面痛、咬合異常感の診断および対処法を学ぶ。 ● 歯科心身症患者に対する医療コミュニケーション法を学ぶ。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	安彦善裕 豊福 明
5 ） 6	SOAPに基づく診療録の記載方法	● SOAPに基づくカルテの記載方法を学ぶ。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	豊下祥史
7 ） 8	禁煙指導	● 禁煙指導・支援による疾患の予防を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	松岡紘史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9 { 12	模擬患者実習：医療コミュニケーション	●小グループに分かれ、模擬患者を対象に医療コミュニケーションを行う。 A-1-2)- 、A-4-1)- 、A-4-2)-	全担当者 ファシリテータ
13 { 16	模擬患者実習：多職種連携	●小グループに分かれ、模擬患者を対象に多職種連携のもとに医療コミュニケーションを行い、患者の抱える問題点を解決する。 A-1-2)- 、A-4-1)- 、A-4-2)- 、A-5-1)-	全担当者 ファシリテータ

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各講義又は実習終了後にレポートを課す（90点）。

SPを活用した医療面接の際に、ファシリテータがOSCEに準じた評価を行う（10点）

・SPから直接フィードバックを受ける。

【教科書】

「はじめての医療面接」 斎藤 清二 著 医学書院

【参考書】

歯科医療面接アートとサイエンス 伊藤孝訓 編 砂書房

EQ 心の鍛え方 高山 直 著 東洋経済新報社

話せる医療者 佐伯晴子、日下隼人 著 医学書院

診療録と重要な医療文書の書き方 山澤 ？宏 著 エルゼビアジャパン

【学修の準備】

予習として、参考書の次講義にかかわる部分を読んでおく。（80分）

復習として、疑問点や理解がしにくかったところを、自分で学習する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

【実務経験】

担当者全員が歯科医師

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、コミュニケーション能力の育成、態度教育、倫理教育、多職種連携教育を行っている。